

環境未来都市選定基準の運用方針

1. 事務局

①コンセプトとの整合性

(a. 将来ビジョンの策定スタンスの妥当性)

ア. 環境及び超高齢化対応の観点が盛り込まれているか。

- ：環境及び超高齢化対応に係る課題・目標が記載されている。
- ×：環境及び超高齢化対応に係る課題・目標が記載されていない。

イ. バックカスティングとフォアカスティングの両面で考えているか。

- ：中長期的な取組方針が目指すべき将来像の実現に向けたものになっているとともに、取組の実現可能性を裏付ける地域資源等について記載がある。
- ×：中長期的な取組方針が目指すべき将来像の実現に向けたものになっていない。又は、取組の実現可能性を裏付ける地域資源等について記載がない。

(b. 実施主体の妥当性)

産民学・自治体のコンソーシアムを形成しているか、又は、形成しようとしているか。

- ：実施主体の体制（コンソーシアム）について、以下の記載がある。
 - ・ 構成員、役割分担・責任分担、意思決定プロセス等
 - ・ 今後コンソーシアムを形成する場合は、予定する体制及びその実現に向けた戦略
- ×：実施主体の体制（コンソーシアム）について、以下の記載がない。
 - ・ 構成員、役割分担・責任分担、意思決定プロセス等
 - ・ 今後コンソーシアムを形成する場合は、予定する体制及びその実現に向けた戦略

②取組内容の具体性

将来ビジョンの実現に必要な具体的な取組方針及び取組内容が記載されているか。

- ：取組方針及び取組内容の記載内容が抽象的でなく、取組の数が極端に少なくない。
- ×：取組方針及び取組内容の記載内容が抽象的、又は、取組の数が極端に少ない。

2. 環境未来都市評価・調査検討会

①将来ビジョン

(a. 魅力度)

市民の目線で「暮らしたいまち」、「活力あるまち」と感じることができるか。

- A：極めて魅力度が高く、「暮らしたいまち」、「活力あるまち」と非常に強く感じることができる。
- B：魅力度が高く、「暮らしたいまち」、「活力あるまち」と強く感じることができる。
- C：魅力度があり、「暮らしたいまち」、「活力あるまち」と感じることができる。
- D：魅力度が低く、「暮らしたいまち」、「活力あるまち」と感じるには不十分。
- E：極めて魅力度が低く、「暮らしたいまち」、「活力あるまち」と感じるには極めて不十分又は感じることができない。

(b. 必然性)

地域の自然的社会的条件等の特徴を踏まえたものであると認められるか。

- A：地域の自然的社会的条件等の特徴を踏まえたものとなっていると極めて十分に認められる。
- B：地域の自然的社会的条件等の特徴を踏まえたものとなっていると十分に認められる。
- C：地域の自然的社会的条件等の特徴を踏まえたものとなっていると認められる。
- D：地域の自然的社会的条件等の特徴を踏まえたものとなっていると認めるには不十分である。
- E：地域の自然的社会的条件等の特徴を踏まえたものとなっていると認めるには極めて不十分又は認められない。

(c. 適切な課題・目標設定と価値創造性)

コンセプトの実現に向けた、環境、超高齢化対応等に関する課題・目標が適切に設定され、その課題の解決と目標達成の過程で環境価値、社会的価値、経済的価値が総合的に創造され続けるか。

- A：課題・目標の設定が極めて適切であり、非常に高い価値創造性がある。
- B：課題・目標の設定が十分に適切であり、高い価値創造性がある。
- C：課題・目標の設定が適切であり、価値創造性がある。

- D : 課題・目標の設定が適切とは言い難く、価値創造性が乏しい。
- E : 課題・目標の設定が不適切であり、価値創造性が非常に乏しい。

②取組内容

(a. 包括性・戦略性)

将来ビジョンの実現に相当程度寄与する包括的かつ戦略的な取組となっているか。

- A : 極めて十分に包括的かつ戦略的な取組となっており、将来ビジョンの実現に相当程度寄与する。
- B : 十分に包括的かつ戦略的な取組となっており、将来ビジョンの実現に寄与する。
- C : 包括的かつ戦略的な取組となっており、将来ビジョンの実現に寄与し得る。
- D : 包括的かつ戦略的な取組となっているとは言い難く、将来ビジョンの実現に係る寄与の度合いが不十分。
- E : 包括的かつ戦略的な取組となっておらず、将来ビジョンの実現に係る寄与の度合いが極めて不十分。

(b. 事業性・熟度)

自立的・自律的なモデルが構築される見込みはあるか。またその熟度は高いか。

- A : 自立的・自律的なモデルが構築される見込みが極めて十分に高いと考えられ、その熟度も極めて十分に高い。
- B : 自立的・自律的なモデルが構築される見込みが十分に高いと考えられ、その熟度も高い。
- C : 自立的・自律的なモデルが構築される見込みがあると考えられ、その熟度もある。
- D : 自立的・自律的なモデルが構築される見込みが低いと考えられ、その熟度も低い。
- E : 自立的・自律的なモデルが構築される見込みが極めて低いと考えられ、その熟度も極めて低い。

(c. 本気度)

自らが責任を持って取り組む意思はあるか。

- A : 自らが責任を持って取り組む意思が極めて強い。
- B : 自らが責任を持って取り組む意思が強い。
- C : 自らが責任を持って取り組む意思がある。

D：自らが責任を持って取り組む意思が不十分。

E：自らが責任を持って取り組む意思が極めて不十分。

③体制

(a. 実効性・熟度)

実効ある取組を継続的に実施することができる実施主体となっているか、又は、そうなる見込みが高いか。

A：実効ある取組を継続的に実施することができる実施主体であると極めて十分に認められる、又は、そのような実施主体となる見込みが極めて高いと考えられる。

B：実効ある取組を継続的に実施することができる実施主体であると十分に認められる、又は、そのような実施主体となる見込みが高いと考えられる。

C：実効ある取組を継続的に実施することができる実施主体であると認められる、又は、そのような実施主体となる見込みがあると考えられる。

D：実効ある取組を継続的に実施することができる実施主体であると認めるには不十分、又は、そのような実施主体となる見込みが低いと考えられる。

E：実効ある取組を継続的に実施することができる実施主体であると認めるには極めて不十分、又は、そのような実施主体となる見込みが極めて低いと考えられる。

(b. プロジェクトマネジメントの着実な実施)

環境未来都市全体の経営的なマネジメントと各プロジェクトの進捗管理的なマネジメントを共に実施できるか。

A：環境未来都市全体のマネジメントと各プロジェクトのマネジメントを共に実施できると極めて十分に認められる。

B：環境未来都市全体のマネジメントと各プロジェクトのマネジメントを共に実施できると十分に認められる。

C：環境未来都市全体のマネジメントと各プロジェクトのマネジメントを共に実施できると認められる。

D：環境未来都市全体のマネジメントと各プロジェクトのマネジメントを共に実施できると認めるには不十分。

E：環境未来都市全体のマネジメントと各プロジェクトのマネジメントを共に実施できると認めるには極めて不十分。

(c. 都市間連携・ネットワークの有効活用)

国内外の都市間連携・ネットワークを有効に活用し、自らの取組の更なる高度化、創出した成功事例の普及展開の加速化を実現できるか。

- A : 国内外の都市間連携・ネットワークを極めて有効に活用し、自らの取組の更なる高度化、創出した成功事例の普及展開の加速化を実現できると極めて十分に考えられる。
- B : 国内外の都市間連携・ネットワークを十分に有効に活用し、自らの取組の更なる高度化、創出した成功事例の普及展開の加速化を実現できると十分に考えられる。
- C : 国内外の都市間連携・ネットワークを有効に活用し、自らの取組の更なる高度化、創出した成功事例の普及展開の加速化を実現できると考えられる。
- D : 国内外の都市間連携・ネットワークを有効に活用しておらず、自らの取組の更なる高度化、創出した成功事例の普及展開の加速化を実現すると考えるには不十分。
- E : 国内外の都市間連携・ネットワークを有効に活用しておらず、自らの取組の更なる高度化、創出した成功事例の普及展開の加速化を実現できると考えるには極めて不十分。

※持続可能な経済社会の実現への寄与

我が国全体の持続可能な経済社会の実現に相当程度寄与することが見込まれるか。

定性評価：目指すべき将来像の実現に向けた課題の解決・目標の達成の過程で、我が国全体の持続可能な経済社会の実現に相当程度寄与すること見込まれるかを総合的に勘案